News of The Japanese Weekend School of New York

BIG APPLE

ニューヨーク補習授業校
56 Harrison St. Suite204
New Rochelle, NY 10801 U.S.A.
Tel:(914)636-3770
Fax:(914)636-7476
平成２５年　７月　６日　No. 7
発行責任者：校長　櫻井郁男

お断り

ビックアップル　5号　6／7日発行の紙面で掲載した資料「授業観察記録」について、

「本年度実施している授業研修での資料です」と説明いたしましたが、

正確には校長が指導担当となった授業に際し、授業者や共に参観(授業研究)をした教員に配布している資料です。

従って6月７日現在、全ての教員がこの資料を基に研修を終えているわけではありません。

本校教員の研修は様々な方法や機会があります。今回は教頭が「授業巡視(本校での正式名)」と「研究授業」後に授業者に宛てた感想や事後指導事項を教頭・教員の了解のもと紹介いたします。

本時の目標　必要な事柄を確かめ、順序立てて話す。

昨年も感じましたが、先生の授業は用意周到で、準備しつくされた感があるほどです。今回、非常に完成度の高い授業だったと思います。いたるところに先生のアイディアや工夫が施されていて、私一人で授業を見るのがもったいない気がしました。教室に入った途端、まず気付かされたのが、掲示物の多さです。これだけの量を準備し、また一人で貼ったのは大変な労力と時間がかかったと思います。子どもたちを思い、良い教室環境を整え、授業に取り組む先生の熱意が伝わってきました。

次に、子どもたちの机が特別な配置になっていることに気付き、どんな授業が展開されるのか、期待させられました。子どもたちの机の上を見ると、教科書もノートも何もありません。(中略)子どもたちを集中させ、子どもたちに尋ねました。ともすると、補習校の先生たちは時間不足になるのをおそれ、子どもたちより先に答えを言ってしまったりするのですが、さすがに先生はそのようなことはしませんでした。それどころか、前へ出てこさせて発表させました。この時期からこのような(発表の)訓練は非常に貴重です。私自身、小学校高学年まで、人前で発表するのは非常に苦手で、すぐに赤面し足も震えるというありさまでしたから、小さい頃からこのように鍛えてもらえば、もうちょっと違った人生をおくれたのではないかと思いました。



次に「教科書を出してください」という先生の指示で、音読練習に入りました。その時に先生が、意識して取り組まれたことが子どもたちの姿勢です。「ちゃんと座って！」という言葉を繰り返し、必要な子には「○○くん、○○ちゃん」と名前を呼んで、徹底させました。この指導こそが低学年を担当する先生に求められていることです。授業の最後まで、先生は根気よく、このようなしつけ(授業規律にかかわること)をなされていたことに、深く感服しました。

一番驚かされたのは、子どもたちが全員自分の「教材」を用意していて、お互いに見せ合ったことです。先生が事前に保護者に連絡し、「用意」させたのだとは思いますが、見事にみんなが様々な「教材」を用意してきたことに保護者と先生が連携し合って、今日この授業が成立したのだと思うと、何か感銘じみたものを感じさせられました。そのあとの流れもスムースで、・・・

最後に、本時の目標である「必要な事柄を確かめ、順序立てて話す」というところまで、無理なく持っていったことに先生の大変な力量を感じました。

確かに、いきなり発表しなさい、話しなさいでは、無理がありますが、これだけのお膳立てを経てからなら、かなりハードルが低くなります。大変計算しつくされた素晴らしい授業でした。指導案も 5 分刻みで、テンポがよく、リズムが整っており、順序を追って展開されていきました。ダラダラした授業では子どもたちの集中は持たないので、先生も意識して 5 分刻みにしたのだと思いますが、見事です。

先生の光った場面はほかにもあります。子どもたちへの注意のひき方が大変上手です。・・・(略) 「今日は特別な(物)を持ってきました」といって、子どもたちの目をひきつけ、・・・略

素晴らしい授業を見せていただき、ありがとうございました。

本時の目標　根号を含む簡単な式の計算や変形ができるようにする。

英語検定の日と重なったということで、やや寂しい感じでしたが、どの生徒も集中していてなかなかいい雰囲気でした。またチャイムと同時に授業が始まったのも、当たり前といえば当たり前ですが、とても良かったと思います。

初めにプリントを配布し、先生が「一瞬で終わるよ」と声をかけましたが、先生らしい、ユーモアの感じられる表現で面白いと思いました。プリントをやらせながら、机間巡視をしている先生に熟練した教師の余裕が感じられました。(略) 途中から来た3人も加わって、大変落ち着いた学習雰囲気が保たれていました。

先生の良さは、説明がとても丁寧で、省いてもいいような基本的なこともしっかりと説明してくれることだと思います。さらに、答え合わせの時も、問題も含めてしっかりと板書し、非常に分りやすい授業になっています。他の先生も言っていましたが、先生と生徒達の良い関係が感じられる授業でした。このようなよい関係が築かれたのは、先生の授業スタイルにあると思います。先生にとっては当たり前のことで気付いていないかもしれませんが、先生は説明するときに、一方的に説明するのでなく、生徒達と対話をしながら説明を進めていきますね。このことが、生徒たちにストレスを感じさせず、先生の授業はわかりやすいという感想を持たせるのでしょう。

根号の中の数をできるだけ、簡単な数にすることの理由も先生の説明を聞いて、納得です。(√12より2√3のほうが「2×1.73」と考えられるので、数字の大きさがつかみやすい、という説明)私の記憶では、数学の先生からそのような説明を聞いた覚えがありません。ただ、ルートの中は素数にするという決まりを教えられただけだと思います。(・・・忘れているのかもしれませんが。)いずれにしても目から鱗です。



写真はW校　夏祭り(大縄飛び)

また、「途中の計算をしっかりやる人は、ケアレスミスが少ない」という言葉も生徒の胸にしみ込んだと思います。ありきたりの言葉でも、どんな先生がどんな場面でどう言うかで、生徒は胸にその言葉を刻みます。

大した冗談も言わず(失礼！)脱線話もなく、淡々と授業を進めているにもかかわらず、時折笑いが起こるのは、スゴイ指導技術です。まったく無駄のない授業で、指導案通りに(というか指導案以上に)授業が展開されていきました。

これからも本校の教育のために、もてる力を存分に発揮していただけるようお願いします。　　ありがとうございました。